

福島県生涯学習インストラクターの会

機関誌

曙 光

第7号

発行人 湯田 善一

編集 広報委員会

事務所 福島市北沢又

字小泉南6-5 事務局長宅

TEL・FAX 024-557-8146

平成20年3月1日発行

「生涯学習インストラクターへの期待とは」

副会長・総務委員長 美田 京子

10年前定年をむかえた私は、おそまきながら財団法人実務研究所の通信教育を受け、インストラクター2級、1級の認定資格を取った。

福島県生涯学習インストラクターの会は、平成14年11月16日文部省認定社会通信教育協会から認定された福島県内のインストラクター317人のうち105人が入会を希望して設立した。

設立総会席上、文部科学省生涯学習政策局 佐藤安紀民間教育事業室長が「生涯学習インストラクターへの期待」とし

て記念講演をしてくださった。会員相互の親睦をはかる 行政機関との連携 会員の活動への支援や資質の向上 などに取り組むという目的で現在に至っている。

インストラクターの認定を受けた者たちはもっと増えていると思うが入会者は少なく、当初の会員も年々各自の活動が忙しくなっていることから脱会する者が多く現在は52人の会員が、県内5方部で地道ではあるが内容は濃い活動をしているところである。

さて

第20回全国生涯学習フェスティバル

まなびピア ふくしま2008

まなび愛 うつくしまから夢発信

平成20年10月11日(土)～15日(水)

☆開会式会場 福島県文化センター (福島市) 11日(土)

☆体験ブース ビッグパレットふくしま (郡山市) 12・13・14(日月火)

☆閉会式会場 郡山市民文化センター (郡山市) 15日(水)

で開催される。

これを機に啓発活動をし会員を増やし一人一人の努力が大きな輪になり、本来の目的が更に達成できるよう、初心忘れることなく努力していこうではありませんか。

県北支部活動状況報告

「ふくしま学遊塾」…本格的活動へ

副会長兼県北支部長 菊地 昌彦

当初、「カルチャー発表講座」としてスタートし、平成17年から「ふくしま学遊塾」と変更して実施して来たメイン事業は、第3期（平成19年）活動を予定通り終えようとしております。回を追うごとに内容が充実し、受講者も増え、新聞でも大きく取り上げられるなどして、本格的活動となりました。

平成19年上期の実施内容

1月	「若者を励まそうーミスマッチをなくす」	菊地 昌彦氏
2月	「健康長寿をめざそうー習慣と運動」	安齋 牧夫氏
3月	「やさしい家庭果樹づくり」	中村 紘夫氏
4月	「こけし学入門ーこけしのふるさと」	本多 和子氏
6月	「自然観察一月館町の御幸山を歩く」	阿部 明義氏
7月	「食品の安全性と表示」	齋藤 公男氏
8月	「ゆびを使って頭の体操ー折紙」	美田 京子氏

(傾向) ・一般の方々の関心が高くなって来た。
 ・準備された内容は、高水準のものであった。



「こけし学入門」講師本多和子さん (左上)

平成19年下期の実施内容



「食品の安全」を語る齋藤公男さん

9月	「折紙で遊ぼうー季節を折る」	香野 仁子氏
10月	「文豪シリーズ…室生犀星と金沢」	菊地 昌彦氏
11月	「森林を知る楽しさ…もりの仕組み等」	齋藤 公男氏
12月	「里山を歩く②…初冬の森林」	阿部 明義氏
20年1月	「文豪シリーズ…奥只見湖と三島由紀夫」	菊地 昌彦氏
2月	「やさしい家庭果樹づくりー第3回」	中村 紘夫氏
3月予定	「第2回健康講座…若返り」	安齋 牧夫氏

(傾向) ・参加者が増えて来た。
 ・新聞取材も増えて来た。



会員交流会
 - 「霊山」ふもとと紅彩館にて -

和の風土を基盤に

平成19年11月14日、会員交流会を催しました。晩秋の「霊山」登山と紅彩館での懇親会。今回も郡山から原田重朗さんと高野功子さんの友好参加があり、楽しい会となりました。

会津支部活動状況報告

副会長兼会津支部長 鈴木 隆子

昨年度の反省を生かし、学習内容を吟味し募集しました。その結果、会員も男性4名、

「いきいき人生塾」の開催を主催事業として
 「いきいき人生塾」を開催いたします。
 本会は「地域にまじる学習」することをモットーに、会員の間でも大切に
 しながら進めております。ぜひ、多くの皆さまにご参加くださるようお願いいた
 します。男性の方、若い方もぜひご応募ください。

1. いきいき人生塾 プログラム

回	内 容	日 時	会 場	担 当 者
1	開講式 「会津について考えよう」	6月24日(日) 10:00～	中央 公民館	会津学館インストラクター 齋藤 寛子
2	「おけいこの話」	7月22日(日) 10:00～	中央 公民館	会津エルドラドの会の会長 大野 幸之助
3	「会津の歴史を知る会」	8月19日(土) 10:00～	本庁	塩田中学校史 柳野 浩一氏
4	「会津方面の文化財めぐり」	9月5日(日) 9:00～	中央 公民館	会津学館インストラクター 長瀬ヨシ子・野上千鶴
5	「会津から山へ歩きまわろう」	10月14日(日) 9:00～	中央 公民館	会津学館インストラクター 大野光博・長瀬ヨシ子
6	「会津の食」	11月10日(日) 10:00～	本庁	会津学館インストラクター 藤地 尚文
7	「料理教室に挑戦」	12月9日(日) 10:00～	本庁	主婦 五十嵐シェフ・クロー氏
8	「年末を準備しよう」 閉講式・おけいこの話	1月13日(日) 10:00～	本庁	会津学館インストラクター 齋藤寛子・大野幸之助

(開講式より) 日時 会場 詳細は要する場合がございます。

若い人2名を含め、計25名の応募がありました。第1回目「いきいき人生塾」の開講式も実施。やはりメンバーの層でのムードも今までにない活気が漂いました。各回とも出席率がよく、講師の方々も熱が入り、計画以上の内容をお話して下さり、大いに喜ばれました。各回の会員の声です。<第1回目> Eさん(男)は他界された両親と重なり自然と涙が出てしまった。後日に、直接、その施設を見学や説明を聞き実生活に生かしているとのこと。<第2回目> 会津エルドラドの会を立ち上げ、歴史を探り、精力的に活動される熱意を感じた。会津にいながら知らない歴史がたくさんあると反省しました。<第3回目> スライドを見ながらの学習会となり、しばし、ロマンチックな宇宙の世界へ思い

を馳せました。

<第4回目> 地形から、数千年から1万年以上も前のことが伺われることにみんな深い興味を示し、太古の昔に思いを馳せていました。又、会津自然の家でのバイキング形式の昼食にも満足し、部屋を借りてゆっくり休息したことも好評でした。<第5回目> 「喜多方ラーメンが余りにも有名になりすぎ、蔵屋敷杉山集落など全く知らず、散策もでき感動しました。<第6回目> なんでも売っている現代。久々に手先を動かし、だんだん脳の刺激が活性化し夢中になって作品に取り組む姿勢は若々しく見えました。<第7回目> 小学生の娘と参加。まず、最初に驚いたのが、講師のヒョン先生が、チマ・チョゴリを着て、私たちを迎えて下さったことです。その美しさに思わず見とれてしまいました。料理を始める前に、韓国の習慣や日常の挨拶などを話して下さいました。これだけでも韓国をより身近に感じる事ができました。今回はニラチヂミ作りを教えていただきました。ヒョン先生は、子供にわかるよう、材料の切り方、調味料の配合、焼き方まで、丁寧に教えて下さいました。上手に作るポイントは、お好み焼きのように粉をたっぷり使うのではなく、少なめに混ぜ合わせるということは、今回参加しなければ知ることができませんでした。和やかな雰囲気の中で、本場の味と文化に直接触れる機会を得られたことは、得がたい経験でした。料理に不慣れな男性会員も楽しく挑戦されていました。<第8回目> 閉講式。会津支部との合同「研修会、新春懇談会」のタイトルになっていて、ほぼ全員の参加でした。講師自身の生い立ちは、戦後引き揚げ者で、多難な生活を送ってはきたが、家族、他人それぞれ手をつなぎ今日に至っている。その精神が生かされ自分なりの道を歩んできたこと、身近なお話で参考になりたいと思いました。終了後、近くのレストランへ移動し、わき合い合いのムードながら、いろいろな反省をいただき、



(ピョン先生とニラチヂミ作りを)

散会しました。「これから歩いていくために」支部として活動して行く中で、責任と自身を持って、地域社会のリーダーとして活動の際には、報、連、相（報道・連絡・相談）が不可欠であることを痛感しています。又、ボランティア精神を維持することの難しさも感じる今日この頃です。

県中支部活動状況報告（報告&提言）

副会長兼県中支部長 原田 重朗

組織の活性化に思う

現在まで各種団体の運営にかかわりをもってきましたが、一部の例外を除いて、設立後3年も過ぎると中だるみの状態になったり、なかには解散を余儀なくされる団体もあるようです。

当支部も平成16年1月に発足してから4年目を迎えることができました。

省り見ますと例にもれず所期の目的どおりの運営がなされていない面が多々あり、4年目を契機として支部運営状況の点検見直しを行い、問題点の解消により、組織の活性化を図り会の目的達成のために、努めたいと思っております。

当面の留意点について、上げてみることにします。

1 広報関係

PR不足により会の存在が一般に、認識されていない。

- (1) マスコミの一般向けの広報欄の活用
- (2) 各種生涯学習団体等の機関紙に広報文の掲載依頼
- (3) 各種会合に出席の際に会のPRを行う。（サークル、町内会等の席上でのロコミ）
- (4) 当会の会報「曙光」を、予算的な制約もあると思われるが関係機関に広範囲に配布する。

2 主催事業、講座講演会等の開催

郡山市の場合中央公民館をはじめ、各地域公民館、高齢者福祉、男女共生、勤労者青少年等の各センター主催の各種講座や講演会が、きめ細かに開催されているので、それらと競合しないものを開催する必要があるとあり、一般県民の方々の生涯学習に対するニーズの把握が重要である。その方策としては、講座終了時に希望科目のアンケートの提出を求めると生涯学習実施機関との情報交換等連携が大切である。

3 支援事業

行政機関や生涯学習団体から生涯学習の行事の実施に当って、支援、協力の要請を受けることがあるが、主として会場準備や後かたづけ等労力奉仕を期待されることがあり、或る程度止むを得ない面もあるものと思われるが、各種行事实施に当っては、立案、計画、結果の評価等ソフトの面で貢献していくべきと考える。

生涯学習指導の各分野において、専門的な知識や能力を身に付けている会員であるので、講師として派遣するよう、積極的に推進する体制を整えていく必要がある。

4 生涯学習インストラクター会員の資質の向上

社会の目まぐるしい進展変化に対応できる知識や能力の向上を図っていくことが涵養であり、そのための研修会等の開催により、スキルアップが望まれる。

5 生涯学習活動状況の情報交換

先進支部の活動状況や会員の専門分野の講師としての指導状況等の情報を交換し、会員相互が切磋琢磨して一般社会の期待にこたえられるようにして参りたい。

6 会の運営についての提言の集約

会の運営は、一部の役員のみで行われるべきでなく、全会員から忌憚のない意見を出されるような雰囲気づくりが最も大切であり、会員が一致協力し、連帯感をもって会の運営に参画していくべきであり、そのための提案、提言を集約し実現に努めていきたい。

7 全国生涯学習フェスティバルの参加について

来る10月11日（土）から15日（水）まで5日間開催

～まなびピアふくしま2008～

＝まなび愛うつくしまから夢発信＝

をテーマとして、郡山市のビックパレットを主会場として開催される。当会としてもブースの設置も予定されており、全国レベルの一大イベントなので、積極的な参加と協力が期待される所であり、それに応えていきたい。

以上私見を述べさせていただきましたが、何よりも会員の皆さんのご意見ご提案が貴重です。積極的な提言をいただければ幸いです。

「新入会員の声」

郡山市 梅津収二郎

私の生涯学習



梅津収二郎さん

この度、生涯学習インストラクターとは何かと思い、とりあえず資格を取ろうと考え、勉強をしたわけです。資格を与えられ、では活動してみようかと思いましたが、1人での活動よりも団体活動の方が良いと考えまして、入会をさせていただきました。

私の活動範囲は現在レク活動を中心に、ニュースポーツ・福祉レクが活動中心です。又、私のレク活動は、1999年に資格を取り、続いてニュースポーツ5種目やネイチャーゲーム資格を取り、現在に至っておりますが、今後とも皆々様のお力をお借りして、生涯学習へ邁進して行こうかと考えております。今後とも宜しくご指導のほどお願いいたします。

東白川郡鮫川村 関根 明美

新会員として、この度入会させていただくことになりました関根です。私の住んでいる鮫川村は、大豆やエゴマに力を入れている村です。子供の頃からこの村で生まれ育ち、そして結婚もこの村でしました。子供も3人になり、とても楽しい毎日を送っています。少子化の中での現在、自分は子供達に恵まれた気がします。しかし、近所には子供がいません。兄弟達で遊ぶしかないのです。そんな中、目にとまったのが生涯学習でした。こんな小さな村だからこそできる事がたくさんあるのではないかと思います、とびこんで学習しているうちに子供から大人までに教えてみたくなりました。この会を通して、1人でも多くの方に指導をしていただき、活動して行きたいと思いました。何も経験はありませんが、よろしく願います。



関根 明美さん

函館生涯学習インストラクターの会

現代社会では少子高齢化が急速に進み核家族で世代間交流も少なく、そのため家族愛・隣人愛など人間関係が欠如し、社会現象が崩壊されています。

超高齢社会により、8割の高齢者は、健康で生きがいを求め意欲を持って再活動しようとしています。人材の再活用で、自ら修得した人生経験・知識・技能を次世代に伝承することが大切ではないでしょうか。今こそ豊かな高齢社会のモデルを提示するために実践活動として、生涯学習グループネットワークの組織化を試みました。

- ① 各メンバーが自ら地域に活動拠点をつくる。
- ② 地域活動でリーダーとしての魅力ある人材を育成する。
- ③ 地域で活力の源である『住民参加』と『情報の共有』を広げる。

未来に夢と希望のある、生涯学習社会の輪を広げたいという趣旨のもとに設立しました。

函館生涯学習インストラクターの会は、会員相互の情報交換及び交流・親睦を図り、会員の体験活動及び学習を通じて相互に資質の向上並びに生涯学習の普及・発展に寄与することを目的としています。

平成19年度実施した事業を列挙しますと

- ① 生涯学習社会の構築を普及する実践活動

放課後子ども教室の支援

月例会（一技一芸一相互啓発と自己研鑽の場に）

「折り紙講座」「生涯学習の実践活動」「トンネル完成の裏話」「よろず相談は、どの様な窓口？」「生活でリズムと音楽！」「鯨に学ぶ」等

- ② 各諸団体の生涯学習機会には、積極的に参画する。

設立満5周年記念を兼ねて、函館市で、関係する生涯学習インストラクターの会との交流会開催。（北海道・東北ブロック生涯学習インストラクターの会交流研修会）

<北海道・東北ブロック生涯学習インストラクターの会交流研修会>

日 時 平成19年10月25日（木）～26日（金）

場 所 函館市湯の川温泉

主 催 函館生涯学習インストラクターの会

参加団体 北海道 旭川生涯学習インストラクターまなびあさひかわ（1名）

札幌生涯学習インストラクターの会（5名）

函館生涯学習インストラクターの会（17名）

青森県 青森県生涯学習インストラクターの会（8名）

秋田県 秋田県生涯学習インストラクターの会（1名）

岩手県 岩手県生涯学習インストラクターの会（7名） 計 6団体 39名

来賓として北海道教育庁渡島教育局生涯学習課主幹、函館市教育委員会生涯学習部次長、（財）社会通信教育協会専務理事、（財）実務研究所次長をお迎えし、有意義な意見交換会を開催することができました。

その後懇親会が開催され、和やかなうちに2時間はアツという間に過ぎ、来年は岩手県開催とのつぶやきもあり、名残りを惜しんでお開きになりました。（函館生涯学習インストラクターの会HP等より情報収集させていただきました。）

私の生涯学習

会津支部方部委員 遠藤ヨリ子

私は福島県生涯学習インストラクターの会会津支部に所属し、支部主催の「人生いきいき塾」に参加させていただいています。このことについては支部の活動報告等で詳しく皆さんにお知らせしていますので、今回は、私が今、喜多方で活動している「上三宮わいわい塾」を中心に報告させていただきます。

右記の表でも分かるように、私達は月に1度の例会を原則としており、あまり固苦しくならない様にプログラムを組んでおります。講演からスタートして、市内歴史探訪、文化財めぐり、ハイキング、料理等々、会員が楽しく出席できるように組まれており、事実とても楽しい活動の連続でした。「会津」という大きな枠での活動は有意義で、充実した活動を期待できますが、「地域」という小さな枠での活動も、小さな喜び、小さな充実感、小さな満足感を得ることからして、とても大事な活動の一環であるような気がします。

私が一般会員の場合、生涯学習インストラクターとして、会の運営等にどんな役割を果たせばよいのか、考えさせられること度々でしたが、私なりに試行錯誤を繰り返しながらすばらしい会の充実発展のために、微力ながら努力していきたいと思っています。皆様のご助言、ご支援お待ちしております。



講習会で活躍中の遠藤さん

(中央右)

平成19年度の活動

月	内 容
4	開講式 講演「裁判員制度について」
5	パークゴルフ
6	市内の歴史探訪(熱塩加納町・山都町)
7	雄国ハイキング
8	講演会「ウォーキング講座」
9	太々神楽鑑賞会手伝い グランドゴルフ
10	会津三大ころり観音巡り
11	ソバ打ち講習会
12	ボウリング大会 忘年会
1	今夜の一品料理
2	閉講式 講演「会津の賈金について」

私個人の分野では、時々公民館やグループの方々に、果物、農産物の季節の物のジャム、保存食の作り方をお話する機会をいただき、とても感謝しています。今後ともお役に立てればと思っています。よろしく願います。

(私の随筆集より) 寿老人

県北支部 湯田 善一

福島市内にカレーライスの旨い店がある。店の主人は“カレーライス”と言わず“ライスカレー”といい、くぐる暖簾も未だに“〇〇食堂”というのも、昔ながらの響きがあって郷愁を駆り立てる。旨い訳は、店の主人が頑なまでを守り通して来た「手作りの味」のせいだ。主人の話によれば、自家製のカレーを美味しく作るコツは、“玉葱（たまねぎ）”を沢山入れることだという。玉葱を薄く切り、フライパンで「べっ甲色」になるまで炒めると、玉葱の“甘味”と“とろみ”が出て味が良くなるというのである。また、うっかりして塩味が利きすぎるとな場合は、慌てて水で薄めたりせずに、リンゴをすり下ろして入れると、旨く出来上がるというのである。要するに食材から、いかに「甘味」を出すのがカレーを作る上でのポイントのようである。最近、友達 2 人とその店に昼飯を食いにいった。注文は店自慢のカレーライスである。その席で話題になったのが、カレーライスの皿の端に盛られている“福神漬け（ふくじんづけ）”である。「どうして“福神漬け”なのか」とか、「カレーになぜ添えて出されるのか」などといった他愛のない会話であったが、「ああでもない、こうでもない」と話しているうちに、“七福神（しちふくじん）”に辿り着いていたのである。そこで、“七人の福神”の名を次々に思い浮かべてみるが、どうしても全ての名を挙げる事が出来ず、その未熟な知識には閉口する。

“七福神”といえば、幸福をもたらすという「恵比寿（商売繁盛）・大黒天（富貴）・弁才天（福財）・毘沙門天（福德）・布袋（幸運）・福祿寿（福富）・寿老人（長寿）」である。カレーライスに添える“福神漬け”は、七種類の野菜を調味した醤油に漬けたものであるが、“七福神”に因んでそう呼ばれるようになったという。多分カレーライスの「辛さ」と“福神漬け”の「甘さ」が食材として調和しているからではないかと私は思う。

“七福神”は、子供の頃から“縁起の神様”として、よく母から教えられていたが、いざその神名を挙げるとなると中々出てこない。その中でも、どういう訳か馴染みの薄い二人の神様がいます。“福祿寿”と“寿老人”である。いずれも“長寿の福神”と言われているが、“七福神”以外では信仰の馴染みが薄い。そもそもこの二人の神様は、中国から来た空想上の人物像であると言われているが、そのイメージが、そのまま禅宗の伝来とともに水墨画の画題として日本に輸入されたからではないかといわれる。



寿老人

“福祿寿”と“寿老人”はそのプロフィールがあまりに似ていることからひとつの“神”として崇められた時代もあったというのである。それでは順に、その特徴を紹介すると“福祿寿”は背が低く、長い頭に長い髭、巻物を結んだ杖を持つという。“寿老人”も背が低く身の丈三尺（約 90 ㎝）といわれ、長い頭に長い髭、巻物をつけた杖を持ち、「玄鹿（げんろく）」と呼ばれる鹿を連れているという。だがこれだけの比較では大差はない。



このことが“福祿寿”と“寿老人”を混同させている所以なのかも知れないと私は考えている。

私が“寿老人”のような風貌をした、その老人に遭ったのは、今から15年も前の夏の日盛りのことで、その日は東京での研修の帰り足で空腹も限界に達していた。

「途中で何かを食べれば良かった」と悔やんでも後の祭りである。新幹線を降りて、急に福島駅ビル内にある「立ち食い蕎麦屋」へ寄ってみようと思い立った。

「ご無沙汰しているなあ」。私は無類の蕎麦好きである。特に立ち食い蕎麦は早くて安いのが魅力で、私はいつの間にか“食道楽”の虜になっていた。

しかし、用事があって時々駅ビル内を行き来するのであるが、蕎麦を食う時間もなく、いつも素通りで何んとはなしに疎遠となっていた。

「むっ」とくる蒸し暑さ、外は真夏の太陽がギラギラと照りつけ、滴り落ちる汗をハンカチで拭きながら、その店に入っていったのは、昼下がりのことだった。

「はい、どうぞ」。

ちょっと小気味のいい、いかにも世話好きそうな中年の女店員から出された、「かけ蕎麦」をすすっていると、甚兵衛姿の面長で青白い顔をした“寿老人”のような老人が杖をつきながら、店にヨタヨタと入って来て、私と立ち並んだ。

私には、なぜか仙境の“仙人”のように見えた。そんな老人に「私も歳を取れば、こんな風になるのかなあ」などと想像を膨らませて、その老人に妙に親しみを覚えていた。その会話は、先ず女店員が口火を切った。

「あら、爺ちゃんしばらくごと。病気したんだって……」

女店員は、そう言うと、荒々しく客の食った空ドンブリを片づけた。もう一人の女店員はカウンターの雑巾掛けを始めている。

客は、昼飯の時間帯が過ぎたのか、奥まったところにサラリーマン風の人が2～3人、何やらヒソヒソと話込んでいる。時々密かな笑みも漏れてくる。

「爺ちゃん、それで体の具合はどうなの」

女店員の馴れ馴れしい口調。どうやらこの老人は馴染みの客らしい。

「何んかねえ、友達に心臓病と糖尿が進んでいるって聞いたんだけどさあ」と、今度はズカズカと老人の秘密のベールに踏み込んでくる。

「ん……、まあな」。老人はあやふやな返事をすると、女店員は母親のように、懇願する眼差しで追い討ちをかける。

「もう歳なんだから、無理しちゃ駄目よ。誰だって体は一つしかないんだから……。体は大事にしなきゃねえ。それで蕎麦はいつものやつでいいのね」と目で合図をする。すると老人は店内を一瞥し、手をメガホンのように丸めると、蚊でも泣くようなか細い声で、

「すまんがのお、今日はいつものやつに『生卵を三いつ』入れてくれんかのお」と、臆面もなくのたまう。

女店員は、キツネにでもつままれたかのような顔をすると、

「えっ、『卵三いつも！何で何で！』どうしたのよ爺ちゃん、今日は……」

女店員は怪訝な声で、上目遣いに老人をジロリと見た。

(生卵三いつとは……。私も少し呆れ顔をしたものの、二人の会話が面白そうなので、盗み聞きしてしまい、この不思議な老人の話が、どのように進展していくのか興味津々、蕎麦を食う箸を止めて、笑いながら掛け合い話を楽しんでいた)

「爺ちゃん、どうすんのよそんなに精つけてさあ。何んかいいことあんの？」
今度は、疑い深く横目で物を言う。すると、老人は少し口ごもり、
「今日はさすげねえ。何せ、おめいらがたまげるぐらいの偉れい先生から、特別の許可を
貰って来てるもんでなあ」と、誇らしげに言う。

「へえ、何の許可なのさ」女店員は承知しないように、また言葉を突き返す。

「それがのお、言いたいんだが先生に『男の約束を守れ!』と、口止めされているも
んでなあ」。老人は、そこまで言うと寂しそうに天井を見詰め、そして寡黙した。気のせい
か、老人の目には涙が光っているようにも見えた。

そして、短い沈黙が過ぎると、老人はおもむろに、

「そうそう、三いつはなあ、昨日と今日と明日の飯代わりよ。栄養はタンと取らんと
なあ……」と、若者みたいに言う。

女店員はそこまで聞くと、もう一度老人の顔を覗き込んで、急に押し黙り何かを察した
かのように、ドンブリの縁で三つの生卵を次々と割っていった。

そして、老人にその蕎麦がだされると雑作もなく平らげて、「極楽、極楽」と二度小さく
呟き、笑みを浮かべ、その「立ち食い蕎麦屋」に別れを告げるかのように、丁寧にその女
店員にお礼を述べた。私にも「旦那さんもお達者で……」と力なく言うと、二三度小
さく手を振って、謎を秘めたまま蒸し風呂のような雑踏へと紛れて行った。女店員は俯い
たまま、また荒々しくドンブリを片づけていた。

老人のその小さな丸みを帯びた後姿……。私はその姿に亡き父の背中を見た。あれ
から15年。あの時、老人の言った「男の約束」とは一体何だったのか。今となっては知
るすべはない。

しかし、“寿老人”のようなあの老人……。そして、謎の言葉を秘めたまま立ち去っ
てしまった老人……。あれは、未知の世界から来た“寿老人”だったのだろうか……。

私は遠いあの日が、今日の出来事のように、いつまでも浮き雲の彼方に、その幻影を追
い続けていた。(福島県生涯学習インストラクターの会会長)

福島県生涯学習インストラクターの会事務局だより

- 新しく入会された会員をご紹介します。(3月1日現在)
 - ◇ 引地 晴子さん(いわき市)
- 新たに資格を取得された方、資格は取得していないが得意分野のお持ちの方で、生
涯学習に意欲のある方、近所におりましたら是非入会を勧めてください。
- 3月1日郡山で役員会が開催されています。4月第2日曜日は総会が開催される予
定ですが、詳しくは役員会で決定されます。多数の方の出席お待ちしております。
(事務局長 024-557-8146)

編集後記

毎日寒い日が続いておりますが、皆様いかがお過ごしですか。身体に十分気をつけてお
過ごし下さい。ご協力いただきました皆様に改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。
(広報委員 河村朝子)